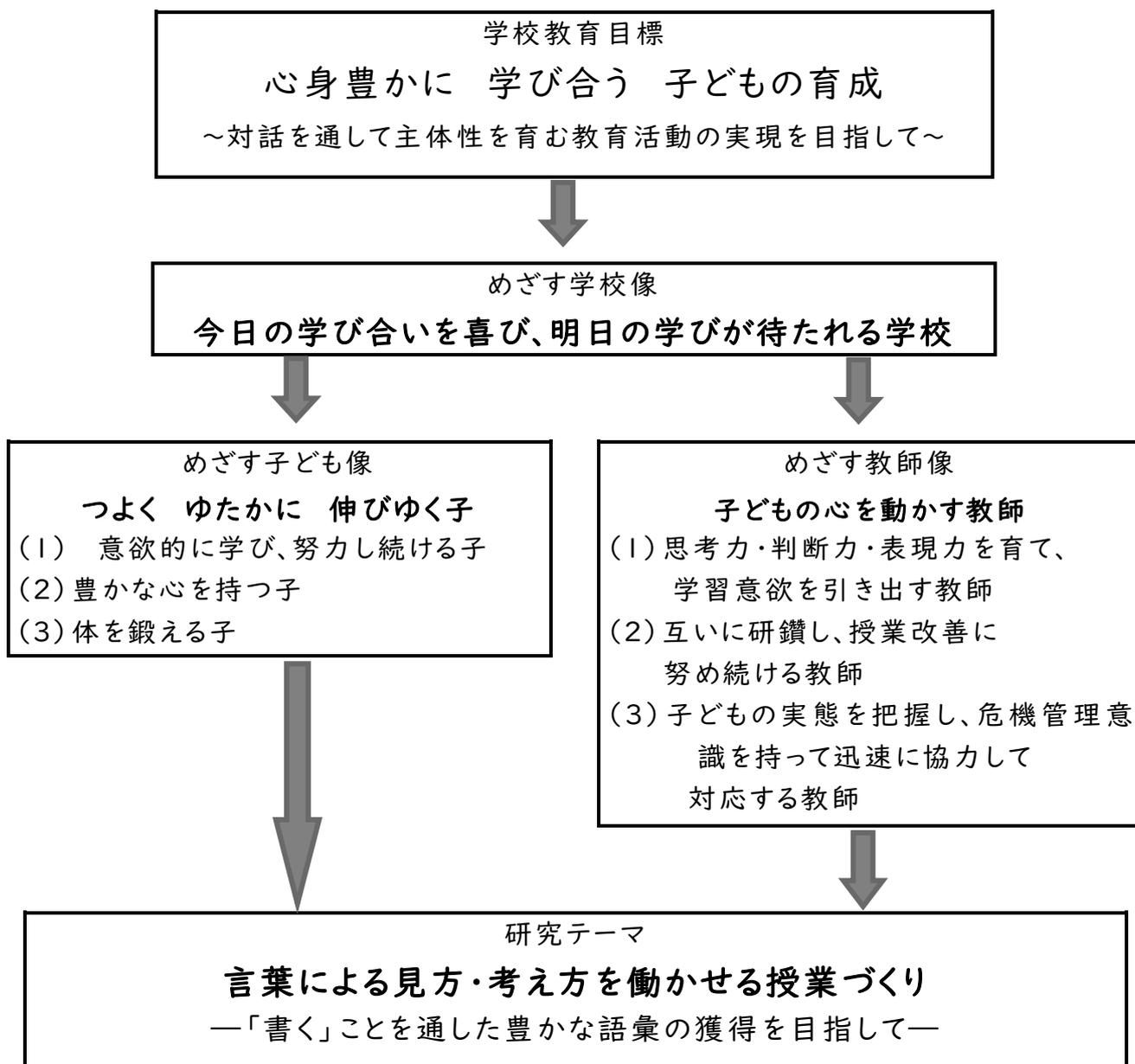


2024年度(令和6年度) 研究推進案



1. 研究主題

(1) 研究テーマ

「言葉による見方・考え方を働かせる授業づくり」

—「書く」ことを通した豊かな語彙の獲得を目指して—

(2) テーマ設定の理由

<本校の現状から>

本研究テーマに沿った研究は 3 年目を迎えた。研究テーマを意識し、様々な場面で「書くこと」を組み込み、言葉を豊かにする授業づくりを目指してきた。

昨年度までの2年間の取り組みを通じた児童の変容として、書くことへの抵抗感が減り、書き慣れが進んでいることがあげられる。授業の中で書く場面が増えたことが要因であると考え。また、昨年度より、ふりかえりの型を校内で統一して活用を促したことにより、その内容の質や量も向上している。言葉の言い換えが複数できるようになったり、国語用語を用いて意見交流したりするなど、様々な語彙を獲得し活用している姿も見られる。

しかし、タブレットで考えを書く(打ち込む)ことは容易にできるものの、手書きになると困難さを感じる児童の姿も見受けられる。低学年から十分に書き慣れを行い、その上で、タブレットでも同様に、自分の思いを文章化できる力の育成が必要である。また、語彙が不足していることから、自分の考えの表出に苦勞している児童もいる。タブレットでの共同閲覧機能により、表出できない児童の存在が顕著に表れる。書き慣れと共に、研究テーマでもある、児童自身が自分の思いを十分に語ることでできる語彙の獲得に向けた取り組みを強化していくことが必要である。

教師の変容としては、どの場面で書かせると効果的であるか、また、ふりかえりの内容はどのようなものを書けばいいのかなど、具体的に「書くこと」を意識した授業づくりが行われている。また、語彙の獲得のために、豊かな言葉を教室掲示したり、教師自身が発する言葉を意識したりと、言語環境が整いつつある。

課題としては、語彙力を高める手立てが広がりすぎたことで、校内全体の取り組みが難しくなったことや、研究テーマの副題にある「書くことを通して」の捉え方の共通認識の不足、授業力を高める手立ての構築がなされていないことが、アンケートから明らかになった。特に「書くこと」において、テーマの広さや系統的な指導の難しさが指摘され、今年度はさらに共通理解の構築が必須である。また、一昨年度からとっている児童へのアンケート「書くことは好きですか」の結果(昨年度 69% 今年度 65%)からも、書くことへの興味低下に対処する手立てや、話す・聞くことを通じて書く力を伸ばすアプローチの検討も必要である。また、本校の研究の一つでもある、「ICT の効果的な活用」についても、整理する時期になっている。今年度は本校の実態に応じた方向性・授業づくりの在り方を示していきたい。

2.研究の進め方

(1)研究の重点

1.国語科を中心とし、「書くこと」を通して、使える語彙力を高める

授業の中で定着しつつある「書く」ことを通して、さらに語彙の量を増やす授業づくりを行っていく。自分の考えを書くだけでなく、板書を写したりタブレットで自分の考えを入力したりすることも「書くこと」とし、児童が意欲的に書くことを楽しめる授業づくりを目指す。また、自分の考えを明確にしたり、場面や条件に応じた表し方を吟味したり、学習の成果を表現したりする場を設定し、テーマに迫っていきたい。また、国語科で研究を進めていくが、どの教科でも「書くこと」を取り入れ、身に付けた語彙の力が他教科でも汎用されているか検証をしていく。

なお、「語彙を豊かにする」とは、意味を理解している語句の数を増やすだけでなく、話や文章の中で使いこなせる語句を増やすことも含む。また、語句と語句の関係、語句の構成や変化などへの理解を通して、語句の意味や使い方に対する認識を深めて語彙の質を高めていく。**6年間で身につけさせたい言葉の力**を意識する中で、語彙力を高めていく。

6年間でつけたい言葉の力	
6年生	(自分の) 考え・主題・批判・評論
5年生	要旨・(書き手・話し手の) 目的・意図
4年生	段落・場面のつながり・情報・内容の関係性
3年生	段落・場面の中心点
2年生	順序・比較・場面・情報のまとめ
1年生	順序・比較

阿部秀高『言葉を鍛えて学力向上』

2.授業力と学級力を高める

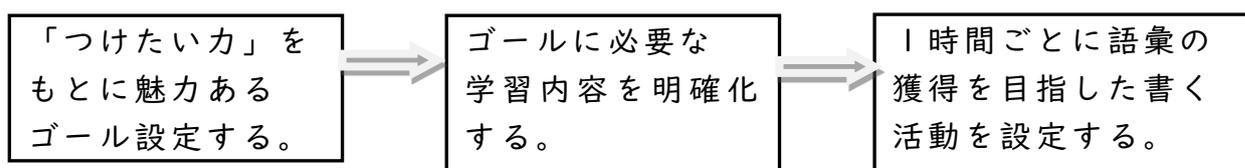
よい授業をしていくためには、よい学級づくりが不可欠である。そのため、よい授業を創っていくためにも、学級力を高めていく。特別支援の視点**(UDチェックシートの活用)**も取り入れながら、基本的な授業フレームを示したり、効果的なICTの活用について提示したりする。

UD チェックシート

既習の学習内容を提示している	必要な時にいつでも、学習内容を振り返ることができるため。
単元・1時間の学習の見通しなどを提示している	見通しを持って学習に取り組むことができるため。
子どもにわかりやすいめあてを提示している	「めあて」は短く提示し、授業中いつでも意識できるようにするため。
ICT(電子黒板、大型プロジェクター、実物投影機など)を活用している	視覚的に分かりやすくなり、児童の思考や理解を助けるため。
図や絵、写真を使うなど掲示物を工夫している	
見やすい板書をしている	重要な語句を目立つ色で示すことで、ポイントが分かりやすくなる。黒板内容とノート(ワークシート)を関連させることで、「書く」ことが苦手な児童もノートが書きやすくなる。また、ノート指導を行うことで、児童の思考や学習内容の理解を助けるものとなる。
ノート指導を工夫している(ワークシート)	
発表の仕方(型)を示している	「はい。〇〇です。」「〇〇さんと似ていて△△です」「〇〇さんに付け加えて□□です。」など、発表の型を示し、発表の仕方を伝える。
子どもの発言や行動を具体的にほめている	何がよかったのかをその場で具体的にほめることで自信につながるのと同時に、よい行動を定着させる。
ノートや新聞などのまとめ方について、子どもにわかりやすい評価をしている	目に見える賞賛(丸付け、シール等)をし、他の児童に提示することで、子どものやる気を引き出す。また、評価の基準を示すことにより、児童にめあてを持たせることができる。
集中できる時間に配慮して活動を組み立てている	教師の話聞き続けることが苦手な児童も、様々な授業形態を組み合わせることで学習に参加しやすくなる。

(2) 授業づくりの手立て

① 単元の組み方



② 書く活動の取り入れ方

どの場面で書くのか 【授業構成】	単元の導入・意見交流の前・授業の最後・単元全体のまとめ・言語活動の成果物など
何のために書くのか 【書くことの目的意識・必然性の自覚】	考えを整理するため・相手に伝えるため・気づきを残すため・自分の取り組みを振り返るためなど
何を書くのか 【書くことの内容の整理・吟味】	自分の考え・考えの変容・授業で学んだこと・次時への問い・友達の発言など
どのように書くのか 【書き方・技術の習得・活用】	キーワードや書き出しを指定する・文字数を指定する・箇条書き・思考ツールを活用する・タブレットで入力するなど
「書きたい」という意欲	書くことの学びの全ての土台 相手意識をもった取り組み・児童同士での交流・書き慣れ遊び 教師からの評価など

③「言葉の宝箱」の活用

- ・タブレットのメモアプリに入れる。(紙でも配布できるようにする。)
- ・教室に拡大ポスターを掲示する。

④ふりかえりのひな形を提示

低・中・高での系統立てた形を掲示し、授業で活用する。

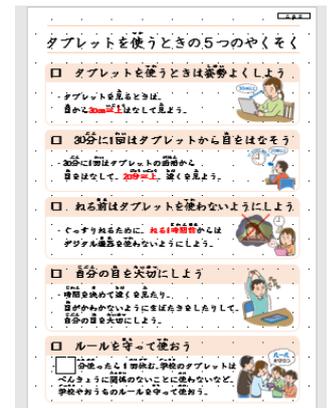
<p>低学年</p> <p>①できたこと・できなかったこと・わかったこと わからなかったこと</p> <p>②はっけんしたこと・おどろいたこと・ ここに のこったこと</p> <p>③もっとしりたいこと・もっとがんばりたいこと</p>	<p>中学年</p> <p>①学んだことのまとめ</p> <p>②学習後の自分の考え</p> <p>③学習のとり組み方(発表・ノート・話し合いなど)</p> <p>④気づき・ぎもん・もっと知りたいこと</p>
<p>高学年</p> <p>①学んだことのまとめ</p> <p>②最終的な自分の考え</p> <p>③学習の取り組み方(発表・ノート・話し合いなど)</p> <p>④気づき・疑問・もっと知りたいこと</p>	

⑤ICTの活用

(ア)話を聞くときは タブレットのフタを閉じて聞く

(イ)キーボード入力の習得

3年生 以上のキーボード入力の **目安**



1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
【ログイン】に必要な文字を打つことができる。	【ソフトキーボード】を使って、文字入力することができる。(日本語かな・フリック入力)	【物理キーボード】を使って、ローマ字入力することができる。	【物理キーボード】を使って、ローマ字入力で短い文章が入力できる。	【物理キーボード】を使って、ローマ字入力で、10分間に100文字程度入力できる。	【物理キーボード】を使って、ローマ字入力で、10分間に200文字程度入力できる。

(ウ) **鉛筆で書くこととの使い分け** (目安として)

学年	手書き	キーボード
低学年	9	1
中学年	5	5
高学年	4	6

⑥国語用語

国語科での共通の言葉・語彙として、学習に取り入れる。必要に応じて、活用や掲示をしていく。

表：児童に示す言葉とその意味	<p>他の物に例える表現。 比喩表現 言いたい事柄を何かに例えることによって、効果を期待する表現方法。 直喩と隠喩（暗喩）がある。 ④ 独三</p>	裏：教師が知って おきたい言葉の意味
指導学年 独○ 光村図書にはない用語		枠の色 赤：物語文の用語 青：説明文の用語 緑：その他で使う用語

⑦学級力アンケート

学級経営・児童理解の手立ての一つとして、学年やクラスで必要に応じて、活用していく。(6月・10月頃実施)

(3) 指導案の書き方 (別紙参照)

(4) 校内研の取り組み

- ・学期ごとに設定する。
- ・代表者・代表クラスのみが授業公開をする。
- ・他クラスは下校させる。
- ・全学年が全体研究授業を行う。(日程は4(2)年間計画参照)
- ・指導案を検討する場に、研究担当と研究部、希望者が参加する。
- ・研究発表会に向けての授業づくりは、ブロックで研究を深める。
- ・今宮先生だけでなく、市の指導主事にも指導助言をいただく。

(5) 研究授業を学びの場にする手立て

- ・子どもの学びの姿を見取る
- ・子どもの表情が確認できる場所で見取る
- ・文字言語で記述したものから見取る

(6) 研究の評価

- ・指導案・全体研究授業
- ・学校評価アンケート(教師、児童、保護者)に研究テーマに関連する項目を設ける。
- ・学力テストの記述問題の正答率

3. 講師 今宮 信吾 先生(大阪大谷大学 教育学部教育学科 教授)

4. 研究計画

(1) 年次計画

- ・1年次(令和4年度)
研究テーマを共通理解し、教材研究と授業実践に重点を置いた研究を進める。
- ・2年次(令和5年度)
教材研究に力を入れ授業実践を深め、成果と課題の確認と検証をする。
- ・3年次(令和6年度)【本年度】
1.2年次の授業実践をまとめ、研究発表会を行う。
成果と課題を検証し、次年度の方向づけを行う。

(2) 年間計画

4月17日(水)	研究全体研修会	研究推進部
6月20日(木)	第一回全体研究授業	年
7月22日(月)	夏季研修会	今宮先生講話
8月20日(火)	笹中校区合同研修会(笹中)	笹原中学校
10月3日(木)	第二回全体研究授業	年
11月22日(金)	市内研究発表会	低年・中年・高年
1月31日(金)	第三回全体研究授業	年
2月27日(木)	研究全体研修会	研究推進部

5. 授業力向上の取り組み

(1) 他教科研究授業

- ・コンサルタントを招聘し、指導案や授業についての助言をいただく。
- ・教師同士で授業を見合う場にしていくため、年度当初に授業者と日程を決定する。
- ・授業力の研鑽の場とするため、どの教科でも可とする。
- ・教職5年目以下は必修、それ以外は希望制にする。

(2) 対話型ミニ講座

- ・授業や学級経営など、気軽に学び合える教師集団を目指した取り組みとする。
- ・年度当初にアンケートを取り、回数・内容を検討する。